



栗東市議議員 田村たかみつ 市議会通信

NO.31
2010/10/10
Since 2003.3

発行／田村たかみつ後援会 栗東市御園 1028 全国競馬労働組合内 TEL／558-0490 FAX／558-2762 後援会会长 福村留治

記録的な猛暑もようやく過ぎ、菊薫る季節となりました。皆様におかれましては、ご健勝の事とお慶び申し上げます。

平素は、わたくしの議員活動に対し、多大なるご理解とご支援を賜り心より厚く御礼申し上げます。

さて、平成21年度の栗東市の決算を審査する9月定例会も終了し、多くの秋の行事が各学校や幼稚園、保育園、そして地域で行われ、スポーツや祭りを通して、普段近くにいながらも疎遠となっている地域の方々とのふれあいに笑顔があふれ、にぎわう声が聞こえてきます。

このような風景がいつまでも続く事を願いながら、「安定」ということがいかに重要であるかを感じています。

民主党政権に変わりましたが、まだまだ国民生活は安定しませんし、尖閣諸島の問題や沖縄普天間基地の問題など外交も混乱状況にあります。

一刻も早く、経済をはじめ国民生活、そして諸外国との関係も信頼の上に立った「安定」を築いて欲しいものです。

そんな中、栗東市は任期満了に伴う市長選挙の時期を迎えました。4年前は、微力ながら栗東市の将来を憂い、市長選挙に立候補させていただき多くの皆様方のご支援をいただいた事を今でも思い出します。

今回の市長選への出馬につきましては、関係方面との調整がつかず出馬を断念する事になりました。多くの皆様からのご意見を胸に刻みながら、再度議員として尽力を尽くして行く所存です。今回の市長選挙および市議会議員補欠選挙につきましては、別紙にてご紹介させていただきましたが、お二人とも栗東市政を任せることのできる人物ですのでご支援をよろしくお願いいたします。

栗東市議会議員 **田村 隆光**

◆7月～9月の主な行事への参加

7月18日	川南ふれあい納涼祭
7月26日	連合滋賀議員団会議役員選考会
7月30日	ダイキン工業納涼祭
8月1日	りつとう夏祭り
8月7日	連合議員団総会
8月8日	民主党3区参議院選挙総括会議
8月12日	全員協議会
8月19日	トレセン夏祭り
8月24日	R D産廃処分場問題県・周辺自治会協議会
8月25日	自治体政策学会研修in東京（～27日）
8月31日	栗東市民ネットワーク定例会議案勉強会
9月2日	9月定例会開会

9月3日	産業廃棄物最終処分場対策特別委員会
9月4日	九里学農会議員グラウンドゴルフ大会
9月5日	琵琶湖クリーンキャンペーン
9月9日	定例会個人質問
9月10日	栗東市長選挙予定候補者との政策協定調印
9月11日	栗東市戦没者追悼式
9月11日	上砥山日吉神社風神祭
9月14日	環境建設常任委員会
9月15日	環境建設常任委員会
9月16日	環境建設常任委員会
9月18日	金勝小学校運動会
9月22日	定例会採決

9月 定例会

9月定例会は、人事4件、条例7件、予算6件、決算12件、その他4件の計33件の議案を審議しました。
その中でも、平成21年度の決算が主なものでしたでのご報告いたします。

POINT 1 平成21年度決算（一般会計・特別会計）

■財政収支状況（一般会計）

歳入歳出差引残額は252,013千円となっていますが、このうち翌年度へ繰り越しすべき財源が32,302千円であるので、これを差引いた実質収支は、219,711千円となっています。

また、単年度収支は、前年度からの128,250千円の繰越（前年度実質収支）を得ているので、これを控除した額91,461千円の黒字決算となりました。

なお全体では平成21年度においては繰上償還金は0円、財政調整基金積立金として435,179千円の積立がされ、基金の取り崩しは430,997千円であり、実質単年度収支は95,643千円の黒字決算となりました。

区分	決算額（千円）
A 歳入	34,442,210
B 歳出	34,190,197
C 形式収支（A-B）	252,013
D 翌年に繰り越しすべき財源 繰越明許費	32,302
E 実質収支（C-D）	219,711
F 前年度実質収支	128,250
G 単年度収支（E-F）	91,461
H 基金積立額	435,179
I 繰上償還額	0
J 財政調整基金取崩額	430,997
実質単年度収支（G+H+I-J）	95,643

■昨年度との比較

	平成20年度	平成21年度
歳入総額	3,719,050万円	4,783,640万円
歳出総額	3,731,450万円	4,777,080万円
市民税	405,610万円	407,000万円
法人税	181,650万円	118,370万円
その他の税収	772,290万円	742,280万円
市債	160,400万円	470,440万円

平成21年度の当初予算は、平成20年度と比して一般会計で26.2%増の36,127,450万円、特別会計でも26.2%増の13,602,300万円で編成されました、平成21年度の決算状況を、昨年度と比較してみると、

税収が軒並み落ち込んでいる中、歳入総額が昨年より100億円（28.6%）ほど収入増になっています。

これは、中学校の耐震化や緊急雇用対策等の国の政策により国・県補助金が増えた事、またそれに伴う市債の増によるものであります。更には健康運動公園用地費の一般会計への持ち替え、土地開発公社への臨時貸付金の対応処理によるものです。

■長引く不況に減る税収

未曾有のデフレ経済による不況により、全国もれなく自治体の税収は減り続けていますが、当市においても、法人税の落ち込みは激しく、対前年比で6億3千万円（34.8%）の減額となっています。

■伸びない税金の徴収率と増える不能欠損処分額

不況により税収が伸びない中、行政としての財政の節約等にも努力はしていますが、一方では、税金の徴収率は伸び悩み、平成21年度分とこれまでの滞納分を合わせて6億を超える税金が未徴収のままでです。

さらには、滞納分のうち徴収不能と判断し、欠損処分としたものが昨年度6800万円増の1億6千400万円ほどとなりました。

このことは、生活困窮者の増もあるのでしょうか、「税の公平負担の原則」を滞納者に認識させ、法的手段も含め厳正な措置を講じるよう進言しました。

■自主財源比率の低下による自由度の減少

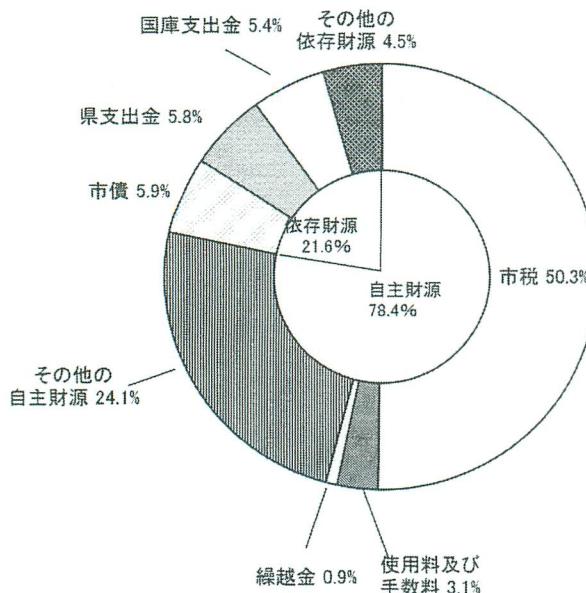
自主財源・依存財源及び性質別決算額の状況は次の円グラフとおりです。

構成比率としては、自主財源68.4%（前年度78.4%）、依存財源31.6%（前年度21.6%）です。

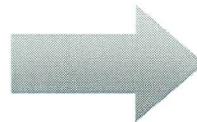
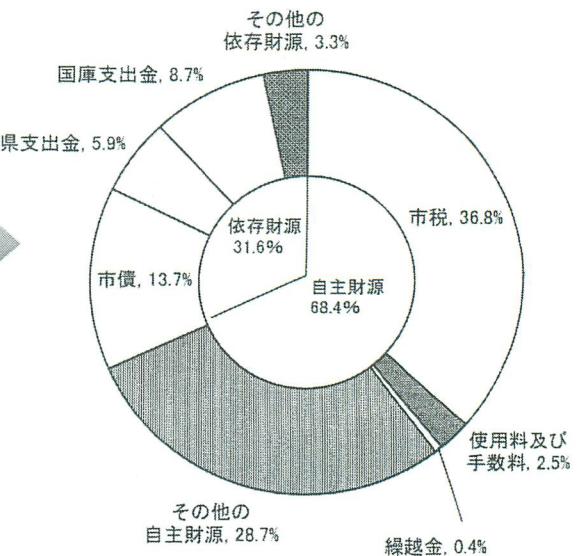
性質別に見ると、総額に占める構成比率は、義務的経費30.1%（前年度37.8%）、投資的経費6.6%（前年度8.3%）、その他の経費63.3%（前年度53.9%）となっています。

自主財源の割合が小さくなることは、補助金への依存度が上がりますので、独自施策など財政の自由度が低くなります。

【2008年決算状況】



【2009年決算状況】



個人質問

質問 近年、地球温暖化の影響と言われている異常気象による集中豪雨は、想定外の規模で、また局所性が高いという特徴を持っており、その発生時期もほとんど偶発的であり、洪水や土砂災害など、危険性を増大させている。

栗東市において、どのような体制で対応されようとしているのか。

質問 自治体の避難勧告のあり方が問題となっている。緊急放送施設、マニュアル、避難勧告発令の情報把握とタイミング、そして要援護者確認、住民の災害認識の低さなど多くの課題がある中で、局所的、偶発的で巨大化する災害に適切な指示ができるのか。

質問 豪雨災害を考えた場合、河川の氾濫が想定できる。特に金勝川においては長年川底の浚渫(しゅんせつ)がされておらず川底が高くなっているうえに葦が群生している。また、上砥山地先で金勝川にかかる上の橋は「橋桁」のある橋で老朽化がひどく、豪雨の際、流木などが堰を作り川が氾濫したり、橋の崩落が想定されるが市の見解は。

個人質問のテーマ

① 豪雨災害等への万全な体制を

答弁 県の防災システムや気象庁からの情報など可能な限りの情報把握に努め局地的、短時間豪雨に備えている。大規模災害時は自衛隊への派遣要請や他市町、指定地方公共機関及び相互応援協定締結市町等への応援も要請する。

答弁 地域防災計画に基づく避難勧告の指示・伝達マニュアルを作成し、基準を定め、野洲川、金勝川での氾濫や土砂災害など大規模災害に備えている。また、基準にとらわれる事なく、職員による水防活動やパトロール、住民からの通報などを総合的に判断し、避難における安全の確保を図る。

答弁 金勝川の浚渫については、例年県に要望しているが財政的な事もあり、5~6年計画が遅れている。また、上の橋については、県道整備の際に旧型の橋のため当初通行止めをお願いしたが、生活道路であるということで理解がいただけず、大型車の通行禁止という事で対応してきた。老朽化している橋である事は認識しており、現在市内の橋の点検を実施している所であり、今後、対応策を考えて行く必要があると認識している。

